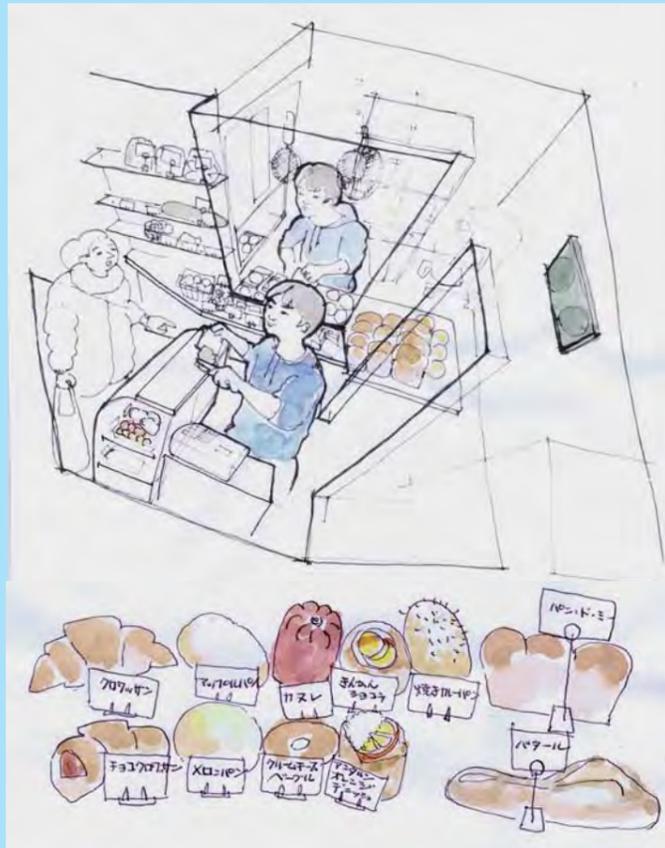


# まちのちいさなパン屋さん

シリーズ～まちの中の達人～



(イラスト: 井出幸子)

中央通り商店会と本町通り商店会の角にあるベッカー・フジワラをお訪ねしました。

ベッカー・フジワラは客が一人入ればいっぱいになるほど小さなお店です。しかし、並べられているパンやケーキの種類は多く、時間によって入れ替わりながら、毎日30種類を焼いているとのこと。しかもどれも美味しそう。ついついあれこれと注文してしまうお店です。

それもそのはず、店主の藤原さんは、名のああるパン屋とケーキ屋で10年修行をされてから、自宅から歩いてこれるこの場所で開業されたそうです。開業して12年。自家製天然酵母を使い、添加物や保存料を使用しないこだわりのパンはまちにすっかり根付き、たくさんのファンがいるそうです。飲食店の紹介サイトでも話題のお店で、たくさんの人がうわさを聞きつけて遠くから買いに来ているようです。

朝8時30分の開店のために5時から厨房に立ち、夜の8時まで、何度もオープンでパンが焼かれています。毎日やり続けることの秘訣を伺うと、「プライドです」と笑いつつ、休みなく動き続ける手元の横には、オープンから出たばかりの食パンが香ばしく並んでいました。



# 池袋本町

# まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho  
Machizukuri News  
**No.62**

2017年3月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会  
http://池袋本町.net  
豊島区都市整備部地域まちづくり課  
問い合わせ先：  
tel 03-3981-1464  
fax 03-3980-5135  
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

## 新しいまちづくり事業…地区防災不燃化促進事業

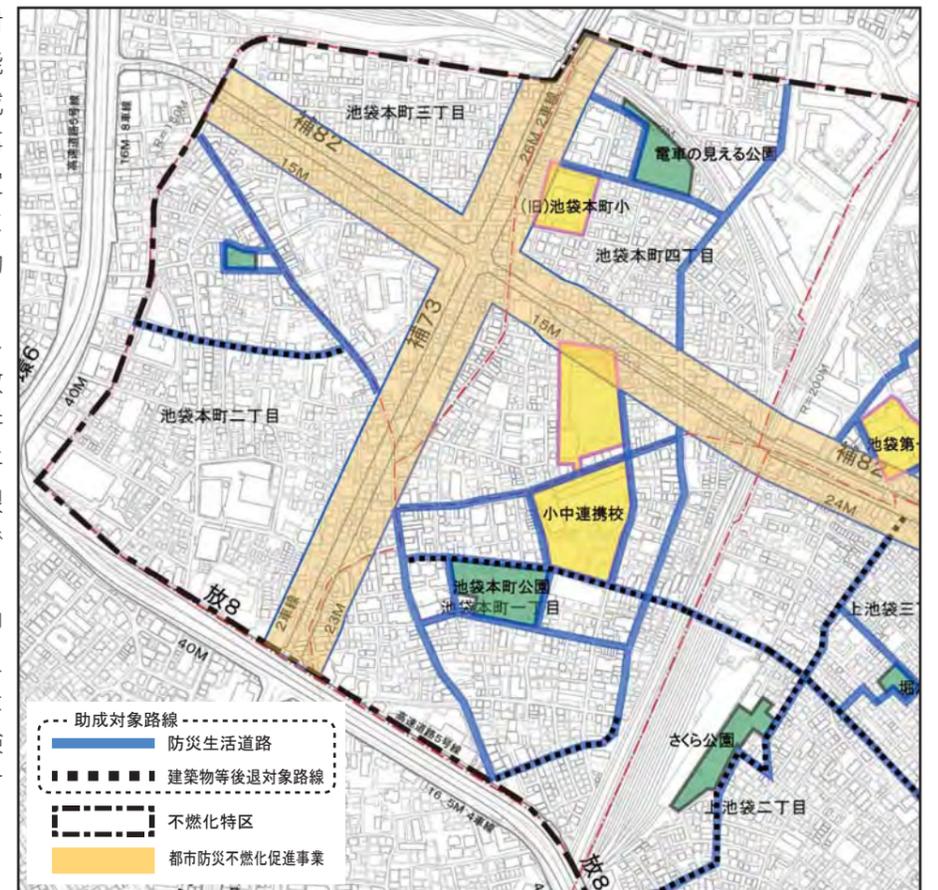
豊島区では、首都直下地震の切迫性を踏まえ、災害危険度の高い木造住宅密集地域を「燃え広がらない・燃えないまち」にしていくため、建替え等に対する各種支援を行っています。

これまでの助成制度等に加え、平成29年4月より東京都の防災都市づくり推進計画に定める「防災生活道路」の沿道で、建替え等に対する新たな助成制度を導入することにしています。

新たな制度は、耐火・準耐火建築物への建替え(耐火性能の向上が条件)に対する助成である「地区防災不燃化促進事業」と、道路中心線から一定距離後退して建築した場合に交付される「建築物等後退奨励金」の2種類です。

対象となるのは、図に示した「防災生活道路」に接する敷地です。既存の助成制度と併用できる場合もあり、また平成33年3月末日までの期間限定ですので、ぜひこの期間での建替えをご検討ください。

なお、建替え前に事前の申請が必要となります。建替え後の申請では助成の対象となりませんので、建替えをご検討の方は区までお問い合わせください。



# まね

## 視点を変えて考えてみると

昨年秋、池袋本町小中連携校が開校し、東武東上線北池袋駅前通りの風景が変わりました。その景観の変化の是非はともかくとして、こうしてまちが変わっていくのだということを多くの人が実感したのではないのでしょうか。

そんな折、歩車道の境界の車止めを通してノーマライゼーションやバリアフリー、ユニバーサルデザインについて考える機会がありました。

「どうしてこんな道つくったの!」という声がありました。歩道と車道の間にある「車止め」の縁石ブロックに足をかけて転んだのです。その話を聞いた方が、「どうなっているの?」と、その道を探検に行ったら、「車止め」に気を取られて、カーブミラーのポールにぶつかり、ろっ骨を折ったとか。

これらのことは、本人の不注意によるものもあるかもしれませんが、それだけだろうかという思いで、改めて校舎の周りを歩いてみました。

二つの事故が二次的な大事故につながらなかつ

たことは不幸中のさいわいでした。転んだ拍子に、他の人や自転車または自動車との接触等につながる危険性が容易に想像できるからです。

区からは車いすの方が通りやすいように段差をなくした設計にしたと聞いています。白杖の方にとっても、あのデッパリは杖で障害物として感知し歩行が可能になると言われています。しかし、弱視の人にとってはどうなのでしょう。また、目に他の障害のある人、高齢になって段差を認識しにくい人にとっては? 眼鏡等では調整の範囲を超える状態や、昼と夜、雨、曇天日、快晴等気象条件によっても影響が出ます。

出来上がった「車止め」に異議を唱えるものではありませんが、視点を変えて考えることによって、これまで気が付かなかったさまざまな問題が浮き上がってくるかもしれません。別の視点を持つことの大切さを再認識しました。(青山静可)



## つれづれに一言

いげよんプロジェクト  
本町訪問看護ステーション  
村崎佳代子

寒さも続き、外に出る事が億劫になりがちです。風のない穏やかな日は、暖かな陽だまりを探しに外に出るのもいいですね。家にもりがちな季節ですが、外を歩くことは大切です。歩くことは、筋力低下防止にももちろん、気分転換や適度な日光浴にもなります。顔見知りのご近所さんや商店街の方と話もできます。

「歩くこと」はメリットが多いのですが、最近街の中で歩いていての方を見かける事が少なくなりました。もし、街の中に腰を下ろせる場所があったらどうでしょう? 途中で腰を下ろして休む場があれば、歩いて買い物や散歩に出かける方も増えるのではないのでしょうか? 腰を下ろして、街を眺めたり、話をしたり…。歩く事が一番自然な形のリハビリなのかもしれません。誰もが安心して出かけたくなるような街「歩いて暮らせる街」になるといいですね。

私たち「いげよんプロジェクト」では地域の医療・介護・相談の専門職と地域住民の方が参加し「だれもが暮らし続けられる街にしよう」という取り組みをはじめたところです。地域の皆さんと「池袋本町新しいまちづくり」に一緒に取り組んでいけたら素敵だと思います。

## 検討会の様子

池袋本町二丁目の公園用地を対象にした「公園づくりアイデア検討会」が行われています。

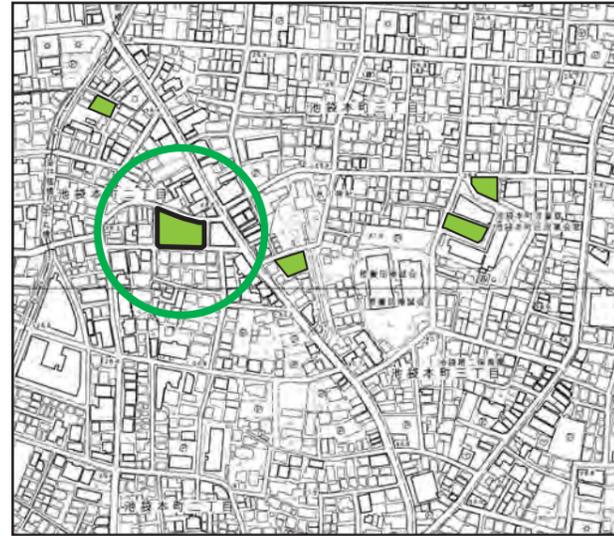
11月5日に行われた第1回検討会では、敷地の中に入って、中央にある段差の大きさを体感したり、周辺の様子を確認しました。その結果をもとにどのような課題があるか、どのような整備の方針が考えられるかをグループに分かれて話し合いました。

12月3日に行われた第2回検討会では、前回課題としてあげられた「みどりと広場の使い方」、「斜面・子どもの遊び」、「入口と園路・近隣との関係」について、3つのテーブルを設けて話し合いました。

2月4日に行われた第3回検討会では、それまで出された意見のとりまとめを行いました。

## いろいろなアイデア

この公園の大きな特徴は中央部に段差があることです。これをどう活かすかについて3回の検討会では、座って休むことができる大階段、斜面を



利用したすべり台（昨年、南池袋公園に作られたような大きなすべり台）、草すべりができる斜面などで遊べるようにする、などのアイデアが出されました。

敷地の中央部は斜面のあるはらっぱとして、子どもたちが駆け回れるようにしたいという意見が多数を占めています。

敷地の外周部は、車の通行の多い道路に面したところでは公園内に歩道状の空地を設けて歩行者が歩きやすくします。それ以外の部分では近隣への配慮を行いながら整備する方針です。

公園のイメージとしては、見通しがよく誰でもが使いやすい公園にしたいと思います。また木造密集地域にできる公園ですから、災害時に活用できるように配置や入口を工夫すると共に、井戸やかまどベンチ、マンホールトイレなどの防災設備の設置も検討しています。

トイレは子どもたちのためにはあったほうがよいという意見がある一方、近隣としてはない方が安心できるという意見が出されました。この近くには氷川神社の前の児童遊園にトイレがあります。豊島区ではトイレの数は増やさないで、維持



管理を向上させて快適なトイレにしていこうという方針があります。話し合いの結果、この公園にはトイレを設置しないことにしました。

## これからの予定

検討会はこれまで3回行われました。たくさんアイデアをいただき、一定の方針もまとまりつつあります。

より多くの皆様のご意見を伺いながら、引き続き検討を行ってまいります。会の開催予定はホームページ (<http://池袋本町.net/>) に掲載されますのでご覧いただき、これまで参加できなかった方も是非ご参加ください。

検討会でまとめられた意見は、地元の皆さまにご説明したあと、区へ提案されます。豊島区では平成29年度に公園の基本設計を行い、平成30年度の実設計を経て、平成31年度に工事を行う予定です。



## 平成28年糸魚川市駅北大火から学ぶ

12月22日10時20分頃、新潟県糸魚川市の駅近のラーメン店から出火、強い南風に乗って日本海まで拡がり、面積4ha、建物144棟(全焼120棟)、120世帯224人の方が被災されました。酒田大火から40年、まさかの大火となりました。

火元は調理場のコンロで、初期に消せなかったため隣家に燃えうつり、また何力所にも街区を越えて飛び火し消火を妨げました。幸いなことに早めに避難勧告がでて死者はありませんでした。

古くからの雪国の雁木造が有名で、狭い間口に軒が接し隣家とは隙間がなく消火がしにくかったようです。耐火造があっても周囲は木造が多く、炎がうつってビル内部が焼けました。建築密度は低いのですが不燃領域率は数年前の調査で30%台、燃えやすい市街地でした。

準耐火造住宅が2軒あり、海側の1軒はほぼ焼け残りました。これは燃えにくい構造で、かつ周辺の空き地や樹木が役だったことが図から読み取れます。所々の駐車場も風横への火災拡大を防いでいます。

大都市の密集地でも、状況によっては大火になる危険性が潜在していることを教えてくれた火災です。もう一度、身の回りの火災や震災への備えを見直しましょう。(吉川)

海から焼け跡を見る

糸魚川市駅北大火の延焼状況

凡例

- 出火点
- 飛び火の着火点
- 延焼方向
- 推定の延焼方向
- 焼失範囲(糸魚川市HP)
- 焼失範囲(廣井調査)
- 建物構造等(現地での推定)
- 耐火造(蔵を含む)
- 準耐火造
- 樹木等(航空写真から)
- 屋外駐車場(同)
- 消防による放水(映像から)

酒蔵の被害 (東京大学廣井先生提供)

焼け跡近くの街並み